

教育 Campingの効果について

——シーズンコース夏山実習における——

松 波 慎 介

緒 論

体育がわが国の教育制度の中に位置づけられるようになったのは、明治5年の学制に「体術」として採用されたのが最初であった。その後、体術から体操へ、体操から体練へ、体練から体育へとその名称を変え、その目的をすところも一様ではなく、時には軍事的な目的に利用されることもあった。今日もなお「体育とは何か」は変らぬ命題であり、特に価値観の混乱した今日の状況の中では一層、体育の理念、目的は混迷しているといえよう。

しかしながら、体育が健康の保持、増進を大前提とした教育である点においては一致した見解が得られるものと思われる。

それでは「健康とは何か」これまで多くの学者が種々の立場から健康の定義を試みてきたが、その多くは、主に個人の心身に限られたものであったといえよう。ここに従来の定義の幾つかを列举してみよう。

「身体各細胞が正常機能を営み、自覚的にも他覚的にもなんら違和のない状態」¹⁾

「健康とは人間が、その欲求の全体を調和的に、統一的に満足させるような身体と精神のはたらきかたである」²⁾

「健康とは外界からの刺激に対して生活機能を発揮するとき、その反応の強さと持続とが一定度の調和を保つ状態」³⁾

「健康とは生体のすべての臓器がよく調和して、完全に機能を営み、生活がおかれている環境によく適応して生活し得る状態」⁴⁾

これに対し1946年に世界保健機構(W.H.O.)が保健大憲章に唱った定義は次のようなものである。

「健康とは、肉体的、精神的ならびに社会的に完全に良好なる存在状態であって、単に病気や虚弱がないというに止まらない」

Health a state of complete physical, mental and social well-being, and not

merely, the absence of disease or infirmity.

この定義を従来のものと比較してみると、従来の定義が自然科学的な实在判断の上に立って個人の心身問題に限定されているのに対し、W.H.O.の定義では、自然科学的なものに社会科学的なものを加えて社会的な問題にまで言い及んでおり、さらに従来の实在判断に対して価値的な判断に基づいているところに特徴があるといえる。⁵⁾

このW.H.O.の考え方で重要なのは、健康が身体的、精神的、社会的の三つの要素に分類されて考えられているが、それらの要素は決して個々に存在するものではなく、これらの要素のバランスがしっかりと保たれた状態を健康として捉えるということである。⁶⁾

この健康の要素と考えられる人間の身体的能力、精神的能力、社会的能力の調和的な発達をめざすところに、私の体育的な立場を置いているのである。

さて本学の体育は、1年次—基礎体育、2年次—応用体育と分かれており、2年次は、学生各自の撰択意志を尊重し、学内で行なわれる定時コースと、学外で行なわれるシーズンコースのどちらかを履習できることをたてまえとしている。シーズンコースは、表のように4種目6コースあり、それぞれのシーズンスポーツの特殊性を生かして野外活動が行なわれることと、約1週間、参加者全員が合宿生活を営むところに特徴がある。

ちなみに、都市化の進行により、野外活動は著しい隆盛をみており、同時にその意義があらためて問題視されている今日、本学においても、シーズンコースの積極的意義を問い直してもよい時期にきたといえよう。

本論は、前述した体育的立場から、本学のシーズンコースが、どのような教育的機能を果たし得ているか、さらに、大学体育として、どのような教育的機能を積極的に果たさなければならないのかを検討する目的でとりかかった調査研究の第1報である。

シーズンコース

コ ー ス		場 所	期 日	期 間	定 員
ス キ ー	1. 12月スキー	志賀態の湯	12月 下旬	7日 間	100
	2. 2月スキー	志賀態の湯	2月 下旬	7 "	150
スケート	3. アイススケート	富士河口湖	1月 上旬	7日 間	60
	4. 室内ローラ(早朝)	後 楽 園	5月 下旬	8 "	150
5. 富士キャンプコース		富士 学寮	7月 中旬	7日 間	60
6. 水泳		戸田海水浴場	7月 中旬	7日 間	60

(45年度 現在)

調査研究の方法

今回は45年度夏季シーズンコースとして実施された富士キャンプコースをとりあげ参加学生31名を対象に質問紙による集合調査を試みた。その内容は、キャンピングの評価に関連したものと、健康観、生活観に関連したものの2点を骨子とするものである。

本調査は、対象者31名と少数で、クロスによる集計分析の困難もあって、調査項目の多くの部分の考察を省略する結果となった。そこで第1報は充分な考察には至らないが、参加者のキャンピングに対する評価と、キャンピング場面に表われた健康観、生活観から、今回のキャンピングが、彼らの生活と意識にどのような関連性を有し、又そのことから、キャンピングの教育的な意義について言及していきたい。

キャンピングの評価

本論に入る前に、今回実施されたキャンピングの概況に少しく触れておきたい。

今回の富士キャンプコースは、昭和45年7月13日から18日までの6日間にわたり、本学の厚生施設である富士学寮の北西側の空地をキャンプサイトとして実施された。この施設は富士吉田駅から約 2.5k、バス停から徒歩5分の地点にあり、北西約1kに富士登山口、南東約7.5kに山中湖、北へ約6kに河口湖がある。

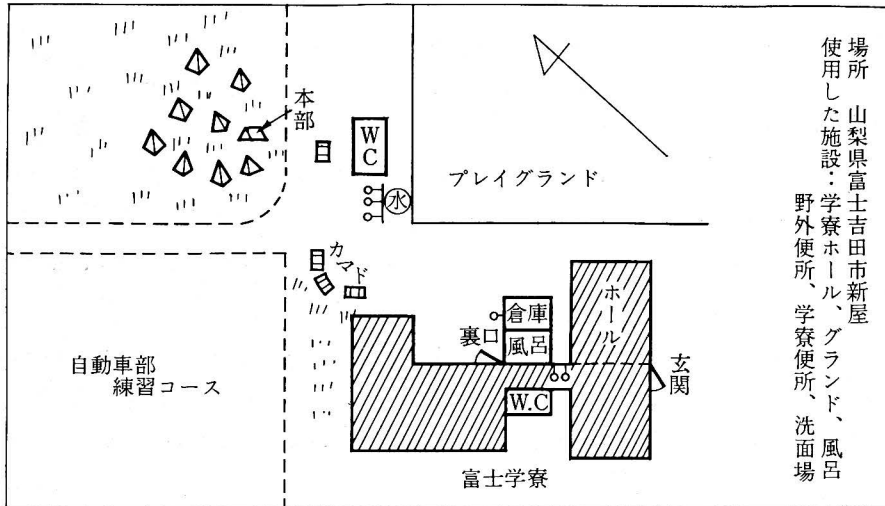
キャンピングの構成メンバーは1部1年1名、2年16名、3年2名、4年1名、2部2年4名、3年4名、4年3名、計31名の学生(内女子3名)と教員4名、総計35名で、教員用の本部テント1張の他に、無作為に組み合わせられた3～4名を1テントとする学生用8テント計9張のテントに分かれて野営した。さらに2テント8人を一班とし、各班に班長1名、テント長各テント1名ずつ、食糧炊事係、施設係、レクリエーション係、保健衛生係、生活係各1名の全員役割り分担制を計り、教官は各班に1名ずつカウンセラー的な立場から参与し、行動を伴にすることをたてまえとした。具体的なプログラム日程及び利用施設等は表2、図1の通りである。

以上のような設定により実施されたキャンピングを参加学生はどのように受け止めたであろうか。① 実施上の状況設定に対する評価、② 個々のプログラムに対する評価、③ キャンピングに対する全般的な評価、の3点から検討してみたい。

先ず設定条件に対する評価では、キャンプサイトに対する不満が高く、約半数に及んでいる。(Q1)これは、キャンプサイトとなった富士学寮周囲には、川とか湖と

教育 Camping の効果について

キャンプ地の概略図



場所 山梨県富士吉田市新屋
使用した施設：学寮ホール、グラウンド、風呂
野外便所、学寮便所、洗面場

キャンピングプログラム

6:00				3:00	
7:00	起床 朝の運動	起床 朝の運動	起床 朝の運動	五合目出発	起床 朝の運動
8:00	自炊 朝食	自炊 朝食	自炊 朝食	第一陣山頂着	自炊 朝食
9:00	山中湖ハイキング	コンパスゲーム	球技大会	最終班到着	テント徹収
10:00	出発	OL出発点まで移動		下山開始	
11:00					
12:00	学寮集合	山中湖到着	昼食(学寮)	学寮帰着	昼食(学寮)
13:00	開講式	昼食 自由行動	登山に備え昼 寝	昼食	調査
14:00	施設づくり	山中湖出発	登山ガイドダンス	休けい	閉講式、解散
15:00		最終者ゴール	出発	キャンプファイヤー 準備	
16:00		学寮帰着		自炊	
17:00	自炊	入浴		夕食	
18:00	夕食	夕食(学寮)	夕食(弁当)	キャンプファイヤー	
19:00	ミーティング	オリエンテーリング			
20:00	自己紹介 歌、その他	説明会(OL) 歌唱			
21:00	入浴	入浴	五合目到着	各班小営火	
22:00	消灯	各班小営火 消灯	仮眠	消灯	
	7月13日	14日	15日	16日	17日
					18日

いった自然を象徴するものがなく、後述する彼らの健康観にも表われている都市環境からの脱脚意識の強さに比して、ここでの自然環境にも足りなさを感じていたといえよう。このことは、山中湖までの舗装道路を歩くハイキングに対する圧倒的な不満傾向(QⅡ)からも明らかである。

しかしながら、キャンピングにとって極めて重要な設定条件と思われる自然環境に対する不満が強く表明されているにもかかわらず、今回のキャンピングに対する全般的な評価で、はっきりと否定的評価を下した者は少なく、半数の者は肯定的な評価をしている。(QⅢ)

このことは、彼らのキャンピングに対する期待が単なる都市からの脱脚意識にとどまらず、もっと大きな期待的要素を潜在的に持ち込んでいたことを意味している。このことは、キャンピングに対する評価の理由の中にも顕著である。彼らが満足であれ、不満足であれ、その理由として挙げたものの多くは、例えば『知らない友との語らい』、『教師との親密な接触』、『友達や他人について、普段気がつかない面を知ることができた』、『いろいろな人と生活ができ、友達もできた』等々の満足観、『まとまりをきちんとしたかった』、『他の班の人との交流が少なかった』、『非協力的な人がいた』等々の不満足観のように、人と人との触れ合いに関する事柄に集中している。このような彼らの意識を現代の都市化状況が、自然環境を破壊するにとどまらず、社会関係をも破壊し、人工化——表層的理解関係——を助長し、現代人を自然の縁ばかりでなく、「心の縁」の飢餓状態へと追いやっていることの反映とみることは飛躍した考え方であろうか。

個々のプログラムに対する評価をみても、「オリエンテーリング」、あるいは「自炊」等、相互の協力を余儀なくされるもの、人的接触の濃密なプログラムに満足傾向が極めて強い、これを否定的評価の顕著な「討論会」や「キャンプファイアー」と比較検討してみると人的構成のちがいが明らかである。前2者は3～8人を1グループとする活動であるのに対し、後者はキャンピングの全構成員31名を一堂に会しての活動であり、ここに対人接触の密度の差がはっきりと出ている。又前2者が、インフォーマルな色彩が強いのにに対し、後2者はある一定のフォームを持っている点からも、さらにこの密度の差が強められているとみてよいだろう。

このような人間関係に根ざす評価の傾向は、『こんどのキャンプ生活の中で学び取られたことがありましたら教えて下さい。それはどのような場面で学びましたか』という設問に対する答えとしても具体的に表われているといえよう。(QⅣ)

「富士登山」に対する高い満足傾向についても、QⅣにみる如き『皆んなの協力に

教育 Camping の効果について

よって自分ではやれないと思っていることでもできるということ』、『個人の意見のちがいをどのように一つにまとめ、班をまとめるか』等の事柄の内に、日頃、大学生活の中で抱き続けてきた人間関係に対する不信感を、このような場面で幾らでも取り戻すことができたという評価の結果として受け取れることができよう。「富士登山」については、困難をさけて通る傾向の強い現代青年にとって、富士吉田口から頂上まで約半日を登り続けるという困難を克服したことによって、満足感とともに強い自信を植えつけられたといえよう。これもQⅣの『自己に打ち勝つ精神力』『遠い目標でも一步一步進めば到達できる』といった具体的事柄から推察されよう。

プログラム評価として、今一つ注目されるのは「朝の運動」に対する高い満足傾向である。これは次の項でも触れるが、彼らの健康生活に対する不満感に根ざすものであり、特に「朝の運動」が規則的な生活のカナメとして評価されたものといえよう。

Q I この実習の状況設定は適切であったかどうか

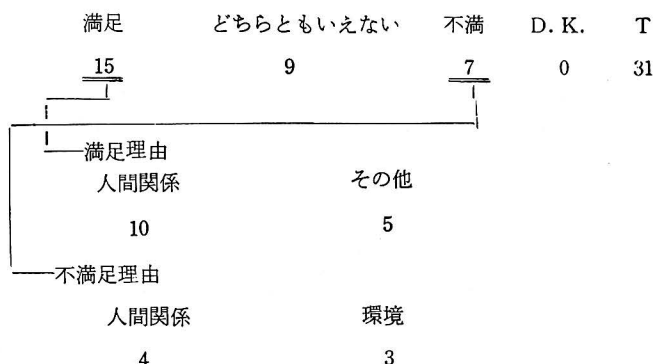
	適 切	どちらとも いえない	不 適	D.K.	T
期 間	23	5	3	0	31
場 所	7	9	14	1	31
キャビンの 広 さ	20	3	8	0	31
費 用	22	8	1	0	31

Q II プログラムの内容に対する満足、不満足

	満 足	どちらとも いえない	不 満	D.K.	T
オリエンテ ーリング	25	2	3	1	31
富士登山	20	7	4	0	31
ハイキング	4	6	20	0	31
討 論 会	2	12	14	0	31
自 炊	19	9	3	0	31
ボールゲー ム	6	13	11	1	31
う た	8	12	10	1	31
キャンプフ ァイアー	9	11	11	0	31
自由時間	7	11	13	0	31
朝の運動	23	8	0	0	31

Q Ⅲ

キャンピングに対する満足、不満足



Q Ⅳ

キャンピングで学びとったこと、その場面 (Open Answer)

- ① なし。
- ② 自己にリーダーシップ的要素が欠けていること。(食事準備、進め方等の役割り)
- ③ 団体行動。(富士登山)
- ④ 共同生活の楽しさ。(自炊・食事)
- ⑤ 自分自身あらゆる点で学ぶことが多かった。(全スケジュールを通して)
- ⑥ 皆んなの協力によって、自分でやれないと思っている事でも出来るということ。(登山)
- ⑦ 礼儀について。(討論会)
- ⑧ テントの張り方から、人間関係まで。(あらゆる場面で)
- ⑨ 個人意見のちがいをどのように一つにまとめ班をまとめるか。(富士登山)
- ⑩ 人間関係。(話し合い)
- ⑪ 人生において先をみるな、先ず足もとをみよ。(富士登山)
- ⑫ オリエンテーリング。
- ⑬ 人間には、外にみせる面と内にみられる面があることがわかるということ。(共同生活の全体)
- ⑭ 人間には、ねばりが必要だと思った。(広いグラウンドで落し物をさがし出した時)。
- ⑮ 色々な人間がいるということ。(自炊、食事だんらんの時)
- ⑯ いろいろな人と知り合ったこと。(自由時間、食事)
- ⑰ 人間は、案外、みかけによらず思いがけぬ面をもっている。(自炊のときの動き方でよくわかる)
- ⑱ 何でも、自分から積極的になれること。(生活すべてにおいて)
- ⑲ 歌をよく覚えた。(歌唱の時間)
- ⑳ 人間を知ること、団体生活の中での自分の行動。(共同生活のすべて)
- ㉑ 友人とのチームワークがうまくとれたこと。(自炊、オリエンテーリング)
- ㉒ 日頃の運動不足と、自分に打ちかつ精神力。(富士登山)
- ㉓ 他人に、あまり頼ってはいけないということ。(すべて)
- ㉔ 富士の頂上まで歩き通せた。(富士登山)
- ㉕ 遠い目標でも一歩一歩ゆっくり進めば到達できる。(富士登山)

- ㊸ スポーツが、自分の中に生きていくには、それから積極的にそれを行なっていくということ。又それを、そだてていくのは、われわれ自身であること。(すべてを通して小営火)
- ㊹ グループ行動。(オリエンテーリング)
- ㊺ 今まで、友人をつくるのが、あまりうまくなかったが、今度のキャンプに参加し、きっかけさえあれば、たやすくだれとでも友人になれるということ。(キャンプ生活全体を通して)

キャンプ生活と健康観

以上プログラム等を中心としたキャンピング評価からみた場合の対象者の日頃の生活とキャンピングとの関連性について述べてきた。次に健康観からみた場合に、今回のキャンピングが彼らの生活や意識とどのようななかかわり合いを持つか、さらには、健康という側面からどのような影響を彼らに及ぼし得たかを検討していきたい。

『あなたはあなたの日頃の生活を健康的だと思いますか』という設問に『健康的であると答えたものはわずかに3名で半数以上が思わない』と答えている。(QⅤ) この結果は、『あなたは日頃の生活に満足していますか』の設問の結果(QⅧ)とはほぼ同様で、一つ一つのケースを追ってみてもほぼ重なり合っている。このことは、日頃の健康生活に対する不満がそのまま暮らし方、生き方の不満へと直結したものと受け取れよう。

対象者の不健康な傾向にある日常生活の具体的な側面をさらに検討してみるならば、『食事、睡眠等の生活時間の不規則』を挙げるものが圧倒的多数に及び、その他は『生活の単調、張り合いのなさ』、『都会生活での精神的疲労』、『運動不足』等となっている。このような彼らの日頃の健康観に照らし合わせてみた場合、キャンプ生活の規則正しさ、バラエティーに組み込まれた生活スケジュール、豊富に盛り込まれた身体活動、キャンプ、自炊等を中心とした非都会的な生活など、今回のキャンピングに盛り込まれた生活要素の多くは、彼らの不健康の具体的な側面とはっきり重なり合っている。対象者自身が QⅦ で多数のものがこのキャンピングが健康的であったと答えていること、さらには、QⅦ で『規則正しい生活』、『都会にはない精神的解放』、『空気がきれい』、『朝の運動』などを健康的なものとして評価していることなどを考え合わせてみると、今回のキャンピングは、対象者の日頃の不健康な側面をある程度カバーしていたとみてよいだろう。

次に健康、不健康の理由として述べられた具体的な事柄を、緒論に述べた健康の3つの側面——身体的側面、精神的側面、社会的側面——に自然的状況を加えた4つの

側面から分類し、考察を進めていきたい。

このような分類に従えば、食事、睡眠、運動といった「身体的側面」として捉えられるものがめだって多く、次いで都会生活との関連からか、精神的解放感、充実感といった「精神的側面」、空気がきれいだといった、「自然的状況」が多くなっている反面、人間関係に代表されるような「社会的側面」から受け取ったものは極めて少ない。したがって今回のキャンピングを健康の3つの側面から検討してみると、「身体的側面」「精神的側面」では一応その機能を果していたとみてよいだろう。（自然的状況の多くは、身体的側面、精神的側面に集約されるものとみてよい。）反面、QⅤ、QⅦで「社会的側面」に関する理由が極めて少ないということは、対象者の健康生活にとって、大して重要な側面ではなかったということであろうか。また、今回のキャンピングがこの面での機能を全く果していなかったということであろうか。もしそうだとするならば前項で述べてきた、キャンピング評価が人間関係に集中的であったことと大きく矛盾する。そこでQⅤ、QⅦ、のような「健康」に直接関連づけた設問ばかりでなく、「健康」との関連を直接に示していない設問の結果についても検討する必要があると思われる。

『日頃の生活と比べて、ここでの集団生活にどのようなことを感じましたか、最も強く感じたものを教えて下さい』という設問に対し、27名（無解答4名を除く）の対象者は次のように述べている。

- ① 同世代のものが、お互いに助けあって生活すること。
- ② 同世代のものが、自然の中で集団生活でき学ぶものがあった。
- ③ ふだんと友人の関係がちがった。
いろいろな方向を持つ人々の集まりであった。
- ④ ふだんの生活の方がたのしい。
- ⑤ 規則正しい生活。
- ⑥ 人間関係の親密さ。
- ⑦ 協調性と時間のルーズさが許されないこと。
- ⑧ ふだん利己主義になりがちだが、ここの団体生活が、それをカバーしてくれた。
- ⑨ 規則正しい生活。
- ⑩ 集団生活のむずかしさ。
- ⑪ 人間同志の和を感じた。
- ⑫ 自分がわがままで利己的であるということ。
- ⑬ 日頃個人主義なので、集団生活はやりにくかった。
- ⑭ 簡素であるということ。
- ⑮ 集団生活を通じ、自己の存在を強く意識した反面、ここでの生活で、なすべきことを自分

はやらなかった。

- ⑯ 集団生活の円満化を図るには、耐えること。
- ⑰ 1 日中、人を知る上で、他の人間をよく観察できた。
- ⑱ 計画的行動の重要さ、その結果の満足感。
- ⑲ 対抗意識がないこと、解放感がある。
- ⑳ 食事作りは大変だ。
- ㉑ 大組織と小組織のちがいがいい。
- ㉒ 日常生活で衛生的面に必要以上の神経を使っているようだ。
- ㉓ 親のありがたみがわかった。(自炊)
- ㉔ 学生と教師との断絶が、この自然の中にあっては少しも感じられない。
- ㉕ 協調性の必要。他人を理解することの大切さ。
- ㉖ 規律正しい生活。
- ㉗ 自分のことを自分でする。

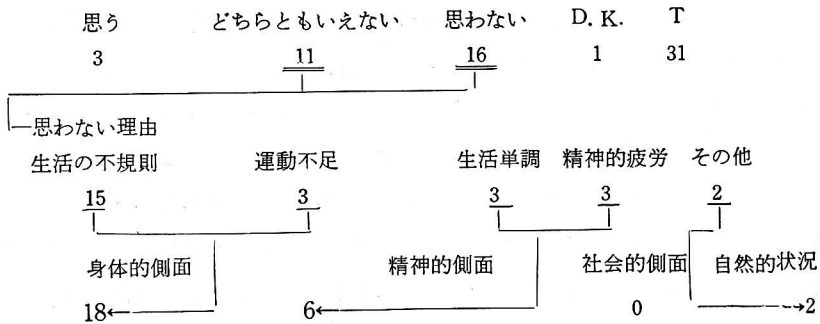
ここに明らかなように、今回のキャンピングで彼らが最も強く意識していたことは対人関係の問題、集団の中での自分の問題など、「社会的側面」に関するものが圧倒的に多く、QⅤ、QⅦとは全く逆の結果となっている。又、『この実習での体験は、今後のあなたの生活に何かの影響を与えますか、それはどのような点ですか』といった設問に『思う』と答えた24名の具体的な理由にも、『リーダーシップのあり方、学生と社会人との考え方の相違』、『協調性』、『人間だれでも話し合えばわかり合える、そういう信頼感がわいてきた』、『グループの協力、協調があれば困難なことでもなしとげられる』、『他の人と親しくつき合える自信が出きた』、『様々な人を知ることにより、自分自身を知ることができた』など、社会的な側面に関連性の強いものが多く、身体的側面からの評価は極めて低くなっている。(QⅩ)

このようにみえてくると、健康観に基づく評価と、キャンピングを全般的にみた場合の評価の間に極めて大きな矛盾が存在しているようにみうけられる。しかしながら、このような現象は、対象者の健康に対するセンスの問題に起因するものであると思われる。彼らの健康に対するセンスは、強く「身体的なもの」あるいは「精神的なもの」といった個人的次元のものとしての受けとめ方に傾斜しており、「健康」との結びつきにおいて「社会的なもの」を顕在化させるセンスが確立されていなかったといえよう。

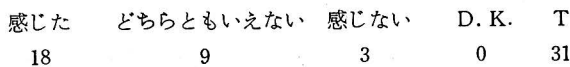
以上のように考えるならば、むしろ彼らは日頃の生活の中に、人間関係にかかわる多くの問題をかかえており、今回のキャンピングには、「社会的健康」の側面に、潜在的にはあるが、最も強い期待が寄せられていたともいえよう。その期待は、テント生活、自炊、オリエンテーリング、富士登山、小営火等々の様々の体験的学習の場で、対象者の主体的意志によってかなえられたと思われる。

松 波 慎 介

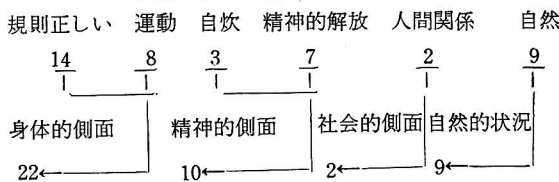
Q V 日頃の生活を健康的と思うか



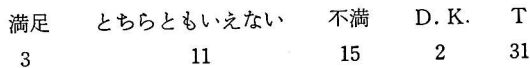
Q VI キャンピングを健康的と感じたか



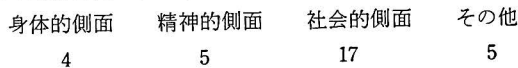
Q VII キャンピングで健康的であると感じた具体的な事柄



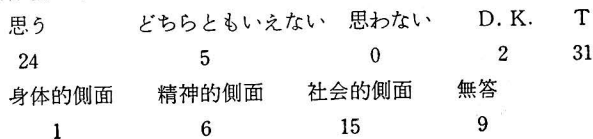
Q IX 日頃の生活に満足か、不満足か



Q XII 日頃の生活と比べ、キャンピングに最も強く感じたこと



Q XIII 実習体験が今後の生活に及ぼす影響



お わ り に

以上の検討をもとにして、体育としての野外活動の意義を考えると、日常生活の枠から脱け出した解放感、自然の中での小集団による生活行動、集団による規則正しい生活など、このような野外活動そのものが持っている影響力のきわめて大きいことがわかる。しかしながら、その力はいくまで潜在的なものであって、それをいかに顕在化させ、より有効な機能を発揮させるかは、その企画と運営にかかわる問題で

教育 Camping の効果について

ある。

本学の学生に限らず、現代人の多くは自然に対する欲求を抱いている。しかしながら、その自然への希求は、単に「破壊されゆく自然」といったような物質的な意味合いから来るだけのものではなく、都会化された Communication から脱け出したいという社会的欲求に根ざすところが多いのではないだろうか。現代の生活からうばわれていくものは「自然の緑」だけではない。「心の緑」もうばわれつつあり、人と人との関係は極く表層的となり、社会全体に不信感が充満しつつある。このような現代社会からの逃避の場として自然への脱出を計る若者も多い。しかし、自然の緑の中へ逃げ込んだだけでは「心の緑」を回復することは出来ない。体育における野外活動の現代的な意義は野外という解放的な場を借りて、失われつつある人間相互の信頼関係を取り戻し、欠落しつつある「社会的健康」の保持と増進を担うところにあると思われる。それには野外活動の偶然的な要素に頼り切ることなく、活動に伴う体験的要素をしっかりと見きわめ、様々な活動体験をそのまま意識の上に定着させるための、積極的なプログラム企画が充分検討されなければならない。

調 査 票

(氏名)	(年齢)	(性別)	男, 女
部	年	科	(単位) 要, 不要
(現住所)			
(出身地)		(出身校)	
(職 業)	有, 無	(職種)	
(所属クラブ)			
(趣 味)		(運動)	

Q1 あなたが現在までに所属したことのあるサークルにはどのようなものがありますか。全部教えて下さい。

Q2 あなたが現在住んでいるのは次のうちのどれに該当しますか。

1. 自宅
2. 下宿
3. 間借り
4. 寮
5. その他 ()

Q3 あなたはこれまでにこのようなキャンプに参加したことがありますか。

→1. はい 2. いいえ

→SQ3 いつどこでだれとなさいましたか。

いつ	どこで	だれと
----	-----	-----

→SQ3' 何回ぐらい経験しましたか。

Q4 あなたはこのキャンプに満足しましたか、それとも不満足な点がありましたか。

1 満足 2 どちらともいえない 3 不満足 4. D.K.

↓
SQ 4 なぜですか。またどのような点ですか。

Q5 あなたはこのようなキャンプ(生活)は好きですか、それとも嫌いですか。

→1 好き 2 どちらともいえない 3 嫌い 4 D.K.

↓
SQ5 特別な理由がありますか。

Q6 今後もこのようなキャンプに行きたいと思いませんか。

1. 是非行きたい。
2. 機会があれば参加してもいい。
3. 余り行きたくない。
4. 絶対に行きたくない。
5. どちらともいえない。

Q7 あなたはこの実習の期間は適切だったと思いませんか。

1. 適切 2. どちらともいえない 3. 不適 4. D.K.

↓
→SQ7 どのくらいが適切とおもいますか。

Q8 場所についてはいかがでしたか。

1. 適切 2. どちらともいえない 3. 不適 4. D.K.

↓
→SQ8 どこが適切と思いますか。

Q9 キャビンの広さと人数についてはいかがですか。

1. 適切 2. どちらともいえない 3. 不適 4. D.K.

↓
→SQ9 どの程度が適切と思いますか。

Q10 費用の点ではいかがですか。

1. 適切 2. どちらともいえない 3. 不適 4. D.K.

↓
→SQ10 どのくらいが適切と思いますか。

Q11 次にあげるプログラムの内容についてあなたは満足しましたか、それとも不満足でしたか。

11-1 オリエンテーリング

1. 満足 2. どちらともいえない 3. 不満 4. D.K.

↓
→SQ11-1 どのような点ですか。

教育 Camping の効果について

11- 2. 富士登山

1. 満足 2. どちらともいえない 3. 不満 4. D.K.

→SQ11-2 どのような点ですか。

11-3 ハイキング

1. 満足 2. どちらともいえない 3. 不満 4. D.K.

→SQ11-3 どのような点ですか。

11-4 討論会

1. 満足 2. どちらともいえない 3. 不満 4. D.K.

→SQ114 どのような点ですか。

11-5 自炊

1. 満足 2. どちらともいえない 3. 不満 4. D.K.

→SQ11-5 どのような点ですか。

11-6 ボールゲーム

1. 満足 2. どちらともいえない 3. 不満 4. D.K.

→SQ11-6 どのような点ですか。

11-7 うた

1. 満足 2. どちらともいえない 3. 不満 4. D.K.

→SQ11-7 どのような点ですか。

11-8 キャンプファイアー

1. 満足 2. どちらともいえない 3. 不満 4. D.K.

→SQ11-8 どのような点ですか。

11-9 自由時間

1. 満足 2. どちらともいえない 3. 不満 4. D.K.

→SQ11-9 どのような点ですか。

11-10 朝の運動

1. 満足 2. どちらともいえない 3. 不満 4. D.K.

→SQ11-10 どのような点ですか。

11-11 その他

1. 満足 2. どちらともいえない 3. 不満 4. D.K.

→SQ11-11 どのような点ですか。

Q12 プログラムとしてもっと加えてほしいものがありましたら書いて下さい。

Q13 あなたがこのキャンプ生活で最も楽しかったことは何ですか。

Q14 あなたがこのキャンプ生活で最も楽しくなかったことは何ですか。

Q15 このどのキャンプ生活の中で学び取られたことがありましたら教えて下さい。

SQ15 どのような場面で学びましたか

Q16 あなたはあなたの日頃の生活を健康的だと思いますか。

1. 思う 2. どちらともいえない 3. 思わない 4. D.K.

SQ16 どのような点ですか。

Q17 あなたはこのキャンプ場にきてここが健康的であると感じましたか。

1. 感じた 2. どちらともいえない 3. 感じない 4. D.K.

SQ17 それではどのような点で一番強く感じましたか。

Q18 あなたがこのキャンプ生活で健康的であると感じたことを思いつくまま具体的に挙げて下さい。

Q19 あなたは健康な生活を営む上には是非「これが必要だ」というものを常日頃感じていますか。

1. 感じている 2. どちらでもない 3. 感じていない 4. D.K.

→SQ19 どのような点ですか。

Q20 この実習を通して感じたことがありましたら挙げて下さい。

Q21 話は変わりますが、あなたは日頃の生活に満足していますか。

1. 満足 2. どちらでもない 3. 不満足 4. D.K.

→SQ21 どのような点で不満ですか。

Q22 あなたはここでの集団生活に満足しましたか。

1. 満足 2. どちらともいえない 3. 不満足 4. D.K.

→SQ22 どのような点ですか。

Q23 日頃の生活と比べてここでの集団生活にどのようなことを感じましたか、最も強く感

教育 Camping の効果について

じたことを教えて下さい。

Q24 ここでの集団生活における「規律」という点で不満はありませんでしたか。不満な点を教えて下さい。

Q25 それでは、グループ分けについてはいかがですか。

Q26 あなたは自分に与えられた役割りに満足できましたか。

1. 満足 2. どちらともいえない 3. 不満足 4. D.K.

→SQ26 どのような点ですか。

Q27 あなたは自分に与えられた役割りについて充分リータシップを発揮できたと思いますか。

- 1. 思う 2. どちらともいえない 3. 思わない 4. D.K.

→SQ27 どのような点ですか。

→SQ27 発揮できた（あるいはできなかった）のはどうしてだと思いますか。

Q28 このような実習は今後も授業として続けた方がいいと思いますか。

- 1. 思う 2. どちらともいえない 3. 思わない 4. D.K.

→SQ28 どのような点ですか。

Q29 この実習での体験は今後のあなたの生活（精神面を含めて）に何かの影響を与えていると思いますか。

- 1. 思う 2. どちらともいえない 3. 思わない 4. D.K.

→SQ29 どのような点ですか。

Q30 日頃の暮らしの中でのレジャーをどのように過ごしていますか。

Q31 あなたは日頃のレジャーのすごし方に満足していますか。

- 1. 満足 2. どちらともいえない 3. 不満足 4. D.K.

→SQ31 どのような点ですか。

Q32 日頃の暮らしの中で、学校生活、その他の生活と2つに分けてそれぞれの生活に問題とすることがありますか、それともありませんか。

32-1 学校生活

松 波 慎 介

- 1. ある 2. どちらともいえない 3. ない 4. D.K.
→SQ32—1 どのような点でしょうか。

32—2 その他の生活

- 1. ある 2. どちらともいえない 3. ない 4. D.K.
→SQ32—2 どのような点でしょうか。

Q33 あなたは日頃暮しのめあてをどのようなところにおいて生活していますか。

Q34 あなたはなぜ学内での授業を受けずシーズンズを選んだのですか。その理由をきかせて下さい。

Q35 あなたはなぜ夏山コースを選んだのですか。その理由をきかせて下さい。

引 用 文 献

- (1) 戸田正三；保健体育概論、笹川久吾外著、体育研究社(昭25)
- (2) 石山修平；初等教育新書(第2巻)、東洋館出版社(昭28)
- (3) 石田周三；人間の生活、中山書店(昭31)
- (4) 沖中重雄；内科書(上巻)、南山堂(昭32)
- (5) 宮田尚之；新健康論、開隆堂出版(昭38)
- (6) 北村義明；「社会体育とは何か」、体育科教育、大修館(昭44)

参 考 文 献

- イ. 教育キャンプに関する研究(第一報)、松波慎介他
レクリエーション研究 3号、レクリエーション研究会(昭42)
- ロ. 教育キャンプに関する研究(第二報)松波慎介他
レクリエーション研究第4号、レクリエーション研究会(昭43)
- ハ. 現代生活と野外活動の意義、磯村英一
体育科教育 1970—7、大修館(昭45)

(まつなみ しんすけ 本学助手 体育学)